

平成25年度

学校教育法109条第1項に基づく自己点検・評価

平成26年6月

公立大学法人九州歯科大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人 九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6番1号
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	19,679,209,480円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設 10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格 昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称 (昭和22年4月医学科廃止) 24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格 平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立</p>
法人の目標	<p>公立大学法人九州歯科大学では、豊かな人間性と探求心を育む歯科医学教育を学生に提供し、的確な判断力と高い技術力のもとより、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の健康管理が行える歯科医師及び歯科衛生士を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育: 歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 ・適性のある優秀な人材の確保・育成 ・教育の質の改善 ・学生への支援 2. 研究: 大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究水準並びに研究成果の向上 3. 社会貢献: 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施 4. 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・運営体制の改善 ・人事の適正化 5. 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自己収入の増加 ・経費の抑制 ・附属病院経営の改善 6. 評価: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。 <ul style="list-style-type: none"> ・評価の充実 7. 情報公開: 情報公開を積極的に推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の公開等の推進

法人の業務	1. 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 2. 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3. 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4. 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5. 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6. 前各号の業務に附随する業務を行うこと。
-------	--

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数値は、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員の内任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	西原 達次	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 学長
副理事長	久藤 元	平成24年4月1日～平成28年3月31日	元米国安川電機取締役会長
常務理事(事務局長)	亀川 正知	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 事務局長
理事(学外)	國武 豊喜	平成24年4月1日～平成26年3月31日	北九州産業学術推進機構理事長
理事(学外)	利島 康司	平成24年4月1日～平成26年3月31日	北九州商工会議所会頭
理事(学内)	柿木 保明	平成25年4月1日～平成27年3月31日	副学長・附属病院長(老年障害者歯科学分野教授)
理事(学内)	鱒見 進一	平成24年4月1日～平成27年3月31日	副学長・附属図書館長(顎口腔欠損再構築学分野教授)
監事	廣瀬 隆明	平成24年4月1日～平成26年3月31日	広瀬公認会計士事務所 所長
監事	服部 弘昭	平成24年4月1日～平成26年3月31日	ナリッジ共同法律事務所 弁護士

(2) 教員

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
教員数	常勤(正規)	119人	116人	120人	120人	120人	121人	
	内訳	教授	23人	22人	25人	26人	26人	27人
		助教授	—	—	—	—	—	—
		准教授	15人	16人	18人	20人	19人	21人
		講師	16人	14人	10人	8人	8人	12人
		助教	65人	64人	67人	66人	67人	61人
		助手	人	人	人	—	—	—
	非常勤講師	134人	135人	144人	173人	196人	203人	
合計	253人	251人	264人	293人	316人	324人		

教員数増減の主な理由

口腔保健学科の在籍が4学年までとなったことにより、授業のコマ数も増えたため、非常勤講師が増加している。

(3)職員			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	52人	41人	38人	36人	33人	31人
		プロパー	11人	18人	24人	24人	32人	37人
		他団体派遣	人	人	人	人	人	人
		その他	人	人	人	人	人	人
		計	63人	59人	62人	60人	65人	68人
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	57人	55人	54人	61人	61人	70人	
	合計	121人	115人	117人	122人	127人	139人	

職員数増減の主な理由

プロパー職員の採用及び嘱託職員(技術職)の補充により増加している。

(4)法人の組織構成

歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局

3. 学生に関する情報

関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
大学	計	790人	759人	96%	95	94	96	94	94	96
内訳	歯学部	670人	683人	102%		100	100	99	99	102
	歯学科	570人	584人	102%	101	100	99	99	99	102
	口腔保健学科	100人	99人	99%			100	100	100	99
	大学院 歯学研究科	120人	76人	63%	70	70	79	72	65	63

収容定員と収容数に差がある場合の主な理由

歯学部歯学科:年度途中で退学した学生がいたことによるもの。

大学院:大学院に進み研究を志す学生が減少する傾向にあり、定員に満たない入学状況が続いていることによるもの。

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	西原 達次	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学理事長
副理事長	久藤 元	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学副理事長
学外委員	石束 隆男	平成24年4月1日～平成26年3月31日	製鉄記念八幡病院理事長
	木瀬 照雄	平成24年4月1日～平成26年3月31日	TOTO(株)代表取締役会長
	北橋 健治	平成24年4月1日～平成26年3月31日	北九州市長
	田岡 洋一	平成24年4月1日～平成26年3月31日	福岡県立小倉高校校長
	芳賀 晟壽	平成24年4月1日～平成26年3月31日	(社福)年長者の里理事長
	長谷 宏一	平成24年4月1日～平成26年3月31日	福岡県歯科医師会会長
	松延 彰友	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学同窓会会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	西原 達次	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 学長
学部長	細川 隆司	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 歯学部長
学内組織の長	柿木 保明	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 附属病院長
	亀川 正知	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 事務局長
	自見 英治郎	平成24年4月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 大学院歯学研究科長
	鱒見 進一	平成24年7月1日～平成26年3月31日	九州歯科大学 附属図書館長

法人自己評価	評価委員会意見・コメント等
<p>I 全体</p> <p>本学は、全国唯一の公立歯科大学であるという特色を活かし、中期目標において優秀な歯科医療人を育成することを重要視し、教育、特色のある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する等の目標を掲げたところである。 この実現に向け、理事長の強いリーダーシップのもと、社会のニーズに対応しつつ、主体的、自立的な大学運営を進めるガバナンス体制を整備し、経営者の立場に立った適正な財政運営、厳正な評価の実施、積極的な情報公開等に取り組んできた結果、計画に掲げた事項については、概ね達成することができた。</p> <p>II 中期目標項目別</p> <p>1 教育</p> <p>初年次段階から病院見学・実習の実施、また3、4年次の実習において実際の診療に沿った実習を行うことで、学生の学習意欲を高めるとともに、歯科医療人としての自覚を促しながら、高度な専門的知識・技術を習得させる「教育方法の改善」及び「カリキュラムの充実」に取り組んだ。 また、FD活動にて教員の意識を高めるプログラムを積極的に実施したほか、個人業績評価データを活用した評価システムを継続的に改善し、教育の向上を図った。 高度な専門性を持った歯科医療人の育成という歯科大学の理念に基づいた取組を進め、歯科医師国家試験、歯科衛生士国家試験の両試験において高い合格率を収めるよう努め、歯科衛生士国家試験においては全員の合格に繋がった。 大学間連携共同事業において、4大学間での単位互換協定を締結し、次年度から4大学間で授業科目の開講および学生の相互受け入れが可能となった。 受験生に向けた広報活動において、模擬講義の実施回数を増加させたり、大学施設見学会を充実させるなど前年度より内容の充実を行ったことで、優れた資質・高い意欲を持った学生の確保が図れた。 学生支援の面においては、学長のもとで就職支援会議を充実させ、組織的に対応したことで、口腔保健学科一期生においては就職率100%を達成することができた。</p> <p>2 研究</p> <p>本学の学生、大学院生および教員の研究活動が学術学会等で高く評価された。評価の高い研究内容については、ホームページ上で公表を行った。また、研究成果を知的財産の観点から検証する発明委員会の開催や、知的財産の管理・運用にかかる情報収集のため、北九州地区の他大学とともに広域大学知的財産アドバイザー派遣事業の採択を受けるなど、研究成果の利用に関する整備に努めた。 外部資金については、科学研究費の獲得額については、平成25年度も高いレベルで維持することができた。加えて、将来の共同研究プロジェクトに繋がるようセミナー等での研究内容の情報発信を積極的に行い企業にPRした。また、今後の新たな外部大型資金の獲得のため、学長主導のチームプロジェクトを始動した。 学長重点枠研究費において、平成25年度も国際会議である第2回Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2014を開催。タイ、フィンランドから講師を招き、口腔保健に関する先行事例の紹介が行われた。さらに、第2期中期計画達成のためという視点で、重点枠を厳選し、研究費の有効活用に努めた。 九州工業大学との歯工学連携をさらに医歯工学連携に発展させ、県民の健康・福祉の向上に向けた研究に加速させた。また、歯工学連携の国際シンポジウムや特別講演を開催するなど、研究成果の発信を世界に向けて行うことができた。</p> <p>3 社会貢献</p> <p>地域社会への貢献に関しては、公開講座等を7回実施し地域住民に研究成果等の有用な情報発信を行った。とくに百周年記念事業として開催した市民公開講座においては600名近い参加者があり、地域住民から高い支持を得た。 また、地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動を実施し、大学近隣の保育園、幼稚園、老人クラブにおける講演や相談にも取り組んだ。 国際交流に関しては、新たにフィンランド、カナダ、タイ、インドの大学と協定書を交わしたことで、学術交流を行っている国、大学は8ヶ国10大学となった。 加えて、海外での歯科保健活動については、昨年度同様ベトナムにチームを組んでの参加体制をとったことで、現地の歯科医療に従前以上の貢献を果たすことができた。</p>	

4 業務運営

業務運営については、理事長のリーダーシップのもと、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善に努めた。重要事項の企画立案・検討や情報発信を行う企画広報班によって、中期計画に係る進捗管理や責任体制の明確化、ホームページ・大学案内のリニューアル、UIマニュアルの策定、法人窓口としての業務が行われるなど、業務運営の円滑化に一定の効果が上がっている。また、事務局機能の強化に向け、県派遣職員に依存しない事務局体制への移行を見据え、プロパー職員を計画的に採用し、事務局内全ての班にプロパー職員が配置された。県立3大学の事務処理の共有化、効率化という課題に対して、三大学合同で法人職員採用試験を実施し、効果的な事務処理を図ることができた。情報マネジメントの根幹となる情報セキュリティポリシーを策定し、副理事長をCIOとした情報マネジメント体制を確立した。附属病院については、診療体制の充実に向けて、スタッフの充実と業務改善を行った。また、地域包括型歯科医療連携体制の構築のため、各種セミナー、研修会、意見交換を行った。

5 財務

外部研究資金としては、科学研究費等の個人研究費の獲得状況が従前どおり高い水準を維持し、科学研究費の採択率が全国3位となった。また、新たな外部大型資金の獲得のため、プロジェクトが動き出している。附属病院については、先進医療1件を維持するとともに、数テーマにおいて申請に向けての準備が進められた。介護病棟の入院患者への歯科訪問診療や訪問口腔衛生指導を積極的に行うことによって収入増を図った。また、地域との歯科医療機関との連携をさらに進めるための取り組みを行った。

6 評価及び情報公開

評価については、次期認証評価に向け、引き続き自己評価を行うとともに、業務評価の結果を適切にフィードバックし、評価結果が低かった項目については、改善を図った。情報公開については、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをホームページや大学案内パンフレット、入学募集要項等に掲載し、広く学外へ発信した。また、UIマニュアルを整備し、広報物で使用するロゴ等の規定を行い、封筒・名詞などの配布物、ポスターなどの掲示物に記載し、全国的にアピールした。さらに、本学をPRするDVDを作成した。創立百周年に関しては、来年度開催する創立記念式典・祝賀会の成功に向けて新聞社に広報。さらに、大学ホームページや駅に看板広告を設置するなど、さまざまな広告媒体を使用し情報発信を行った。

Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

「地域の歯科保健医療に貢献する医療人を育成するための教育を推進する」

歯科医療人としての自覚を高める初年次教育から、実践的な臨床能力の体得を目指す臨床実習に至るまでのカリキュラム編成を充実させた。加えて、教員の教育力向上のために、FDを活発に行うとともに、個人業績評価システムの充実化を図った。こうした取組をはじめとして教育の充実に努め、プロフェッションとしての歯科医療人の輩出を行った。

「特色ある地域歯科保健医療活動を展開し、地域社会に貢献する。」

地域歯科医療の中核病院としての機能を十分発揮できるよう、病診連携室の業務を拡充し、歯科医師会や近隣の歯科医療機関等との意見交換や勉強会を行い、地域包括型歯科医療連携体制の整備を進めた。また、在宅療養高齢者に対する歯科医療保健サービスのシステム構築を行なった。地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動についてはより積極的に展開した。

「専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。」

企画広報班に配置した情報処理専門のプロパー職員が中心となり、情報セキュリティポリシーの策定、ホームページの全面リニューアル、基幹システムの更新に伴う予算要求等の重要案件を処理した。それ以外でも、県の派遣職員に依存せず、自立的な大学運営を図っていけるよう、プロパー職員を全ての班に配置するとともに、SDの実施や研修への積極的な派遣によるスキルの向上を図った。

「全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージを確固たるものにする。」

2014年度に本学が創立百周年を迎えるというこの機会を捉え、様々な記念事業を展開することで、学内での機運醸成や学外へのPRに努めた。また、新聞広告への掲載や駅への広告看板設置等による広報を行った。加えてUI活動を展開し、広報物等での統一した情報発信を通じて、ブランドイメージの定着を図った。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 1. 教育</p>	<p>「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。」</p> <p>(1)特色ある教育の展開 九州歯科大学は、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力を育成するための教育を実施する。</p> <p>(2)教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3)意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4)学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
-----------------------	---

項目	中期計画 実施事項	平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号									
					評価	理由											
<p>1. 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成</p> <p>1. 授業要綱の検証と改善 2. 成績評価基準の明確化 3. 教育の効果・成果の検証</p>	<p>1【初年次教育の改編・充実】</p> <p>①初年次教育で、歯科医療人としての職務を体験させ、プロフェッショナルとしての自覚を高めるような教育カリキュラムを作成する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)</p>	<p>1-1【平成25年度計画】</p> <p>○初年次教育の段階から、歯科医療人としての自覚を促すことを目的とした早期登院実習カリキュラムを立案する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)</p>	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>○初年次教育の段階から歯科医療人としての自覚を促すと共に、初年次教育、歯科基礎・臨床医学教育、及び診療参加型臨床実習の連続的な歯学教育カリキュラム構築を目指した。とくに、平成25年度は、学長主導で歯学科学学生が生涯に渡って歯科医療人の自覚を持続するため、歯学教育のセンター化構想を中心とした初年次から6年次までの全体的カリキュラム改編に着手した。</p> <p>○目標実績 ・学生の成績：平均GPA 2.3(満点4)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		1									
									<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p>								
									<p>【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)</p>			(決定)	<p>【意見・コメント等】</p>				
									<p>【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)</p>								
									年度 評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
									24								
25																	

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項				評価	理由					
2	【専門課程における教育カリキュラムの検証と充実】 ①歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版(H22年度)に準じて、臨床登院実習を中心に歯学科カリキュラムを充実させ、実践的歯科医師育成を推進する。 ②1～4年次の完成年度(H25)以降、卒業生の就職状況を踏まえて、口腔保健学科カリキュラムを検証する。 ③チーム医療の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の連携科目を開講し、口腔保健医療の総合大学としてアピールできるカリキュラムを編成する。 ○達成目標 ・学生の成績:平均GPA 2.5以上(満点4)	2-1	2	【平成25年度の実施状況】 ○臨床実習開始前のシミュレーション実習と臨床推論教育を充実させ、臨床実習終了時の学生の能力評価を実施した。その上で、以下のような改編を行った。 ・3、4年生の臨床基礎実習として従来の科目毎の実習を見直し、まずは歯科医療の基本であり、3年次で教育する歯科保存学と歯科補綴学に関する「歯の治療学実習」および「口腔機能再建治療学実習」において、実際の診療に沿った実習である「シナリオベース実習」に改編・実施した。シナリオベース実習に対する学生の反応を検証したところ、高い評価が得られた。その結果を踏まえて、臨床基礎実習の他科目(インプラント学、部分欠損補綴治療学、歯周病学、小児歯科学等を含む)のシナリオベース実習導入に向けて検討を開始した。 ・3、4、5年生の講義に、ICT(教育手法として用いられはじめたクリカ法(参加型授業、双方向授業に活用できる機能を有した無料のオンラインサービス)など)を用いた参加型・対話型授業「臨床推論学I、II」を実施した。 ・5年生の実習として、実際の臨床実習で頻度の高い技術を対象とした「スキルアップ実習」を導入した。また、高頻度治療に対する技術をさらに醸成するため、6年生の臨床実習期間中においてスキルアップ実習を継続した。 ・6年生臨床実習における自験症例を増やした。 ・6年生臨床実習終了時に臨床能力修得状況を評価するため「臨床実習終了時能力検定試験」を実施し、試験結果をもとに能力が到達していない6年生についてはスキルアップ実習を追加し再試験を実施した。 ○口腔保健学科学生の基礎臨床能力向上を図るため、附属病院における臨床実習カリキュラムを見直した。 ・平成24年度に改編した口腔保健学科3、4年生の臨床実習カリキュラムを実施し、見直しを行った。 ○チーム医療の認識を高めるため、初年次教育および臨床実習前教育で、歯学科と口腔保健学科の連携科目を組み込み、カリキュラムを充実させた。 ・両学科2年生の講義・実習としてチーム医療の意識を涵養するため平成24年度に改編した「歯科医療人育成学」を実施し、次年度に向けた見直しを行った。 ○目標実績 ・学生の成績:平均GPA 2.3(満点4)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	2				
								(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			
								【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】	
								【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)			
								年度評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	業務実績評価書の記載内容
								24			
25											

3	【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】 ①モデル・コア・カリキュラム改訂にあわせた各教科の到達目標と成績評価基準を授業要綱に明示する。 ②厳格な成績評価を行う。	3-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○シラバスに明確な達成目標と成績評価基準を明示し、学生が歯学教育の流れを理解できたかを検証するため、理解度・習熟度についてのアンケート調査を実施したところ、概ね良好な結果が得られた。 ・シラバスの項目として学生の到達目標、講義・実習の各回における学習目的、成績評価基準を明示した。 ・歯学教育のセンター化に合わせて、カリキュラム概要を包括的に把握できるカリキュラム・マップ作成の検討を進め、おおむね完成させることができた。 ○学生が作成した学習行動計画を年度毎に検証するシステムの構築を図るとともに、成績表の保護者への送付と保護者説明会を引き続き開催した。 ・成績不振の学生に対しては、保護者面談を実施して、学習方法などについて、学生と保護者を交えた説明会を行い、学習状況の改善を図った。 ・歯学科5年生からは10人程度の単位で学習グループを構築し、グループ毎に助言教員を配置する教員によるチューター制度を実施することで、各学生の学習状況を把握・指導することで学習状況の改善を図った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	3				
								(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			
								【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】	
								【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)			
								年度評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	業務実績評価書の記載内容
								24			
25											

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)							
		年度評価	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
		24							
		25							
4	【教育の成果・効果の検証】 ①歯学科は、共用試験 Objective Structured Clinical Examination (OSCE)とComputer Based Testing (CBT)を教育効果という視点で活用する。 ②入学試験、定期試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、両学科とも国家試験の高い合格率の維持を目指すとともに、入学試験方法の改善を図る。 ③卒業試験に臨床実習試験制度を導入する。 ○達成目標 ・(歯学科)共用試験:共用試験合格率 100% ・(歯学科)国家試験合格率:全国29大学の中で常にトップクラスを目指す ・(口腔保健学科)国家試験合格率:歯科衛生士国家試験 100%(新卒受験者)	4-1	【平成25年度計画】 ○歯学科は、共用試験のデータを解析し4年次生までの講義・実習の充実を図る。 ・成績不振の学生に対しては、教員によるチューター制度を活用して不得意科目の克服を図るとともに、成績・修学状況管理システムを活用して修学支援を行う。 ・国家試験終了後、事務局の学務管理システムと連携し直ちに解答分析結果と各学年における成績との関連性を分析し、修学支援につなげる。 ○臨床実習終了時における臨床能力評価試験制度を実施する。 ○入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各試験結果との関連の分析を実施する。 ○試験問題を教務部会等の組織により検証する。 ○達成目標 ・(歯学科)共用試験 : 共用試験合格率 100% ・(歯学科)国家試験合格率 : 全国29大学の中で5位以内を目指す ・(口腔保健学科)国家試験合格率 : 100%	1	【平成25年度の実施状況】 ○歯学科は、共用試験結果の解析データをもとに、学生の弱点科目を克服するために、臨床実習開始前の講義・実習を充実させた。 ・4年生で実施される共用試験結果の解析データをもとに、5年生、6年生で、教員によるチューター制度を通しての歯科医師国家試験対策、および臨床実習中に実施したスキルアップ実習等による臨床実習技術指導の内容を充実した。 ・第106回までの歯科医師国家試験(平成25年実施)で不合格となった者および第107回歯科医師国家試験(平成26年)受験予定者の国家試験対策に、臨床実習期間中に、不得意科目克服に向けて指導を充実した。 ・成績不振の学生に対しては教員によるチューター制度を活用して徹底的な不得意科目の克服、および事務局による支援を継続した。 ・国家試験終了後、直ちに解答分析を行い、事務局による学務管理システムと連携し、今後の教育方針の参考とした。 ○臨床実習終了時に学生の臨床能力評価試験を実施した。 ・臨床実習終了時における学生の臨床能力評価試験を実施し、次年度の臨床実習カリキュラム改編に反映させた。 ○入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各試験結果との関連を分析し、初年次からの各学年における教育カリキュラムと入学試験方法の改善を図った。 ・入学試験実施方法の検討を全学レベルで開始し、改善を図った。 ・入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各試験結果の関連について分析した結果をFDを通じて全教員に周知し、全学的な学生教育体制の向上につなげた。 ○試験問題の検証を教務部会等の組織により実施した。 ・学教務組織として教員から構成される教務部会において、各科目責任者が作成した試験問題について、試験前後の検証を実施した。 ○目標実績 ・(歯学科)共用試験:共用試験合格率:CBT 98%、OSCE 100% ・(歯学科)国家試験合格率:全国29大学の中で11位(新卒)、12位(総合) ・(口腔保健学科)国家試験合格率:100%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.8「資格試験合格率、免許の取得」	4
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)							
		年度評価	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
		24							
		25							

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
2. 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成 1. 授業要綱の充実と改善 2. 大学院指導の客観的評価 3. 学位審査方法の検証	1【大学院教育組織の検証と適正な運用】 ①大学院カリキュラムを定期的に検証し、高度歯科医療人育成に向けて体系的な教育プログラムを構築する。 ②学位審査方法及び募集定員を検証し、質の高い教育・研究者の育成を目指す。 ③臨床系大学院指導の客観的評価法を検討する。 ○達成目標 ・学生の成績:平均GPA3以上	1-1【平成25年度計画】 ○シラバスの内容を検証し、受講者数のデータを踏まえて、歯学研究科大学院教育カリキュラムの体系化を目指す。 ○准教授・講師を学位審査の副査に登用する。 ○過去3年間の定員充足率を検証する。 ○具体的な症例数と臨床研究の発表数などを基準とした評価を実施する。 ○達成目標 ・学生の成績 : 平均GPA3以上(満点4)	1	【平成25年度の実施状況】 ○歯学研究科大学院教育カリキュラムを体系化した。 ・大学院教務部会でシラバスの内容を精査し、受講者がいない科目の整理・統合を図った。 ・学生がより講義・実習内容を理解しやすい様にシラバスの記載方法を改善した。 ○准教授・講師を学位審査の副査に登用し、より専門性と質の高い学位審査を行った。学位審査20件中9件で准教授が副査を務めた。 ○定員充足率の検証結果を踏まえ、定員を25名へ削減した。 ○大学院生の臨床症例数および臨床研究の発表数を分野長が評価した。 ○目標実績 ・学生の成績:平均GPA 2.9	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		5								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
									【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)							
									年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
									24							
25																
	2【歯科保健医療に貢献する教員・研究者の育成】 ①豊かな科学性と倫理性を備えた人材を育成するために口腔保健学科に大学院を設置する。 ○達成目標 ・口腔保健学科大学院の充足率:100%	2-1【平成25年度計画】 ○平成26年4月の口腔保健学専攻(修士課程)の開設に向け、文部科学省に申請する。 ○達成目標 ・文部科学省から開設認可を受ける ・受験者数:3名以上	1	【平成25年度の実施状況】 ○平成25年5月27日に文部科学省に設置申請し、設置の認可を受けた。 ・入学定員:3名、修業年限:2年 ○目標実績 ・文部科学省から開設認可を受けた。 ・受験者数4名、入学者数3名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		6								

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号	
項目	実施事項				評価	理由			
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+) ・ A ・ B ・ C ・ D)		(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)							
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
		25							
3	【歯工学連携大学院の充実】 ①歯工学連携の充実を図り、大学院教育のカリキュラムを改編する。 ○達成目標 ・大学院連携による相互単位認定者:10名以上(年間) ・論文数:英文誌5件(年間) ・特許保有件数:1件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数)	3-1	【平成25年度計画】 ○歯工学連携大学院設置後から現在までの講義受講者数と単位認定の実績を評価する。 ○歯工学連携大学院に係る研究費を適正に配分する。 ○大学間連携共同教育推進事業において、4大学連携による大学院での特別講演会を実施する。 ○達成目標 ・大学院連携による相互単位認定者 : 10名以上(年間) ・論文数 : 英文誌5件(年間) ・特許保有件数 : 1件	2	【平成25年度の実施状況】 ○歯工学連携大学院設置後から現在までの講義受講者数と単位認定の実績を評価し、受講者のいない科目を削除し、新たな科目を付け加えた。 ○学長重点枠から歯工学連携に係る研究2件に対して研究費を配分した。 ○大学間連携共同事業において、4大学連携による大学院での特別講演会を10件実施した。 ○大学間連携共同事業において、4大学間での単位互換協定を締結した。 ○目標実績 ・大学院連携による相互単位認定者 : 15名(年間)(本学8名、九工大7名) ・論文数 : 英文誌5件(年間) ・特許保有件数 : 1件	A	【高く評価する点】 大学間連携共同事業において、難航していた4大学間での単位互換協定を締結したことで次年度から4大学間で学生の相互受入が可能になった。 【実施(達成)できなかった点】	No.22「大学間連携」	7
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+) ・ A ・ B ・ C ・ D)		(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)							
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
		25							

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
3. 教員の教育力の向上 1. 教育実施体制の検証・改善 2. 評価方法の検証・改善と適切な運用	1【FDによる創造的授業開発の推進】 ①FD活動を充実させ、学部および大学院における教育活動の改善につなげる。 ②FD活動の有効性を検証する。 ○達成目標 ・FD参加率およびアンケート調査:参加率95%、平均4点以上(満点5)	1-1【平成25年度計画】 ○学部長のもとに設置されたFD委員会を中心に、教育の改善に向けてFD活動を行う。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行う。 ・FDのアンケートにおける質問と評価の項目を充実させ、有効性を検証する。 ○達成目標 ・FD活動の教員の参加率：各回95%以上 ・アンケート調査:平均4点以上(満点5)	1	【平成25年度の実施状況】 ○FDで、昨年度に続いて「入試/国試 試験結果の解析報告」というテーマのワークショップを開催し、本学における入学試験にかかる状況の検証を踏まえた導入教育の重要性について認識を高め、さらに国家試験結果を検証し、本学における学士教育のアウトカム(達成目標)について教員の意識を高めた。 ○教育改善につながるテーマを中心に13回開催し、その内2回は、教員全員参加(出席率100%)を達成した。 ○百周年事業に関連して、学外より講師を招いた講演会をFDとして2回実施した。 ○目標実績 ・FD活動の教員の参加率：平均95%(13回の内2回は参加率100%) ・平均4.1点(満点5)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.10「FD」	8		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
		年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
24										
25										
	2【教育力向上のための教育力評価システムの開発】 ①教員の授業力向上のために、授業評価や個人業績評価データを活用し、年次推移などを踏まえた分析を行い、講義だけでなく臨床実習も含めた形で、教員の教育力を多面的に評価できるシステムの開発を目指す。 ②学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員にフィードバックし、授業改善に役立てる。 ③教員に対して、組織的に教育活動の改善を求める。	2-1【平成25年度計画】 ○授業評価や個人業績評価データを活用し、教員の教育力を多面的に評価するシステムを実施する。 ○学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員に適切に通知し、授業改善を促す。 ○授業評価や個人業績評価データを活用し、教員に対して教育活動の改善を求める。	1	【平成25年度の実施状況】 ○自己評価に加えて個人業績評価の数値を基に、分野長、学部長、学長による評価システムを確立した。 ○学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員に通知し、学部長面接等で授業改善を促した。 ○授業評価や個人業績評価データを活用し、教員に対して教育活動の改善を求めた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.9「学生による授業評価」	9		

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】			
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)						
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容	
		24						
		25						
4. 適性のある優秀な人材の確保 1. 高いモチベーションを有する人材を確保する入学試験方法の開発 2. 高校訪問やオープンキャンパスなどによる充実した広報活動の展開 3. 新たな高大連携事業の展開	1【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】 ①アドミッションポリシーという視点で個別入試およびAO入試結果を検証する。 ②平成21年度告示高等学校学習指導要領に基づく大学入試センター試験改訂に対応する。 ○達成目標 ・AO入試の志願倍率および辞退率 ・一般入試の志願倍率、辞退率 (歯学科) AO入試： ・志願倍率 3.0倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 4.5倍 ・辞退率 5% (口腔保健学科) AO入試： ・志願倍率 3.0倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 2.7倍 ・辞退率 10%	1-1【平成25年度計画】 ○AO入試の結果を検証する。 ・歯科医師としての適性という視点から、個別面談及び集団討論の有効性について入学後のGPAおよび国家試験成績等との相関を分析する。 ・口腔保健学科のAO入試について検証する。 ○平成27年度入試の改訂内容について、受験生にホームページの掲載等により周知する。 ○達成目標 (歯学科) AO入試： ・志願倍率 3.0倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 4.5倍 ・辞退率 5% (口腔保健学科) AO入試： ・志願倍率 3.0倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 2.7倍 ・辞退率 10%	1	【平成25年度の実施状況】 ○AO入試の結果を検証した。 ・個別面談及び集団討論の有効性について入学後のGPAおよび国家試験成績等との相関を歯科医師としての適性という視点から分析したが、明確な相関関係は得られておらず、さらなる追跡調査が必要と思われた。 ・口腔保健学科のAO入試について検証したが、入学後のGPAとの相関は明確でなく結果の解釈が困難であった。今後、さらなる追跡調査が必要と思われた。 ○平成27年度入試科目の変更に関する検討を終え、受験生に大学ホームページにより受験科目について周知した。 ○目標実績 (歯学科) AO入試： ・志願倍率 4.65倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 5.36倍 ・辞退率 3%(78名中2名辞退) (口腔保健学科) AO入試： ・志願倍率 4.67倍 ・辞退率 0% 一般入試： ・志願倍率 2.82倍 ・辞退率 14%(22名中3名辞退)	A	【高く評価する点】 平成25年度も全国29歯科大学の中で、歯学科の入学定員に達していない大学が数校あるなかで、5倍以上という高い志願倍率が得られた。辞退率も、3%(H24年度は5%)という極めて低いものとなった。あわせて、口腔保健学科においても、安定した志願倍率が得られた。 【実施(達成)できなかった点】	No.1「入学選抜試験」	10
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】			
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)						
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容	
		24						
		25						

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2	【広報活動の実施】 ①オープンキャンパス、高校訪問、大学入試説明会のデータを分析し、実効的な活動を展開する。 ○達成目標 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会実績値 :オープンキャンパス参加者数 250人 高校訪問数 110校 大学入試説明会参加数 15回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査 :オープンキャンパス評価4以上 80% 高校訪問 良好評価 60%以上 入試説明会 良好評価 60%以上 ・志願者数(志願倍率) :(歯学科) 志願者数(志願倍率) 350人以上(4.5倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 60人(2.7倍)	2-1 【平成25年度計画】 ○オープンキャンパスのさらなる充実を図る。 ・オープンキャンパスで回収したアンケート調査分析結果をプログラム内容に反映させる。 ○高校訪問を中心として様々な方法で広報活動を充実する。 ・出張講座、高校訪問、入試説明会を積極的に活用し、そこでのアンケートを分析し、継続的な改善を図る。 ○達成目標 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会 :オープンキャンパス参加人数 250人 高校訪問数 110校 大学入試説明会参加数 15回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査 :オープンキャンパス評価4以上 80% 高校訪問良好評価 60%以上 入試説明会良好評価 60%以上 ・志願者数(志願倍率) :(歯学科) 志願者数(志願倍率) 350人(4.5倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 60人(2.7倍)	1	【平成25年度の実施状況】 ○オープンキャンパスは内容の充実を図り、昨年度の約2割増しの入場者を迎えることができた。 ・前年度のアンケート結果を基に、実習コーナーをさらに充実させた。その結果、アンケートではイベント等で総じて高い評価が得られ、評価が「4」以上の割合は前年度に引き続き95%を超えた。 ○高校訪問を中心として様々な方法で広報活動を充実した。 ・出張講座、高校訪問を実施した高校や入試説明会に参加した受験生のデータから受験生の動向を分析し、アンケート調査結果をふまえ、重点的、効率的な広報活動を展開した。 ○目標実績 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会:オープンキャンパス参加人数 409人 高校訪問数 119校 大学入試説明会参加数 16回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査 :オープンキャンパス評価4以上 97% 高校訪問良好評価 90% 入試説明会良好評価 95% ・志願者数(志願倍率) (歯学科) 志願者数(志願倍率) 418人(5.4倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 62人(2.8倍)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.1「入学 者選抜試験」 No.3「高校 訪問」 No.4「入試 説明会」 No.5「出前 講座」 No.6「オー ンキャン パス」	11	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)-A-B-C-D)			(決定)	【意見・コメント等】					
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
年度 自己評価 評価委員会 評価 評価 ウェイト 評価 ウェイト					業務実績評価書の記載内容				
24									
25									

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3	【高大連携の実施】 ①高校との連携を深め、組織的に模擬講義を企画運営する。 ②高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会の実施等を行う。 ○達成目標 ・模擬講座実施回数、参加学生数、参加者アンケート :実施回数 6回 参加学生数 80人 良好評価 60%以上 ・大学施設見学会実施回数、参加教諭数、参加者アンケート :実施回数 1回 参加教諭数 20人 良好評価 60%以上	3-1 【平成25年度計画】 ○高校での模擬講義を実施するとともに、その評価方法を検討する。 ○本学及び歯学教育の好感度や関心度の向上を目指し、高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会の企画案を作成する。 ○達成目標 ・模擬講座実施回数、参加学生数、参加者アンケート :実施回数 6回 参加学生数 80人 良好評価 60%以上 ・大学施設見学会実施回数、参加教諭数、参加者アンケート :実施回数 1回 参加教諭数 10人 良好評価 60%以上	1	【平成25年度の実施状況】 ○高校での模擬講義を実施するとともに、その評価方法について検討し、実施回数や実施内容に反映させた。 ○平成25年度から、高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会をオープンキャンパスとは別に実施した。多くの高校から参加申込みがあり、活発な質疑応答や施設見学を通じて、歯学部教育と歯科医療界の実態を理解して頂くことができ、優秀な受験生の確保につながる取組みができた。 ○文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に指定されている明治学園中学高等学校において、高校一年生6名を対象として、SSH科目「歯科疫学実習」の授業を全20回提供した。疫学研究、データ解析の学習を通じて、学生の批判的思考能力の向上につながったとの評価を得た。 ○次年度の広報活動の充実に向けて、大学紹介ビデオを作成した。 ○目標実績 ・模擬講座 :実施回数 9回 参加学生数 484人 アンケート良好評価 86.2% ・大学施設見学会 :実施回数 1回 参加教諭数 11人 アンケート良好評価 100%	A	【高く評価する点】 模擬講義の実施回数を増やし、総参加学生数が484人と目標の80人を大幅に超えた。学生からの良好評価も86.2%と高い値を示した。さらに、平成25年度から、高校の進路指導教諭向け大学施設見学会を、オープンキャンパスとは別に開催し、目標以上の参加者数と高い評価(良好評価100%)を得た。さらに、大学の広報活動の充実を図った。 【実施(達成)できなかった点】	No.5「出前講座」	12
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】				
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
	評価	ウェイト	評価	ウェイト				
24								
25								

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
5. 学生への支援 1. 学生のニーズや社会状況の変化に対応した学生支援の実施 2. 教員、職員が連携したきめ細かな学生支援の実施	1【学生相談・助言・支援の組織的対応】 ①学生相談業務を充実し、支援体制の拡充を図り、きめ細かな学生支援を実施する。 ②学年主任会議、学生対策指導会議などを通して連携を強化し、教職員が一体となって問題案件の解決を図る。 ③保護者説明会を開催し、成績不振学生への修学指導を行う。 ○達成目標 ・学生支援に関するアンケート調査:評価4以上(満点5) ・保護者説明会に関するアンケート調査:評価4以上(満点5)	1-1【平成25年度計画】 ○学生相談について、利用しやすい環境作りに努める。 ・学生に対して学生支援に関するアンケート調査を実施する。 ○学生表彰において、学業成績優秀者に対する表彰基準の見直しを行い、表彰対象者の拡大を図ることで、学長賞の充実に努める。 ○キャンパスライフ・ガイダンス(カレッジライフ・ガイダンス)の充実を図り、学生に修学指針を周知徹底する。 ○保護者説明会を開催するとともに、保護者に対して大学の「学生指導」に関するアンケート調査を実施する。 ○達成目標 ・学生支援に関するアンケート調査 : 評価4以上(満点5) ・学生指導に関するアンケート調査 : 評価4以上(満点5)	1	【平成25年度の実施状況】 ○学生が相談しやすい環境を作るために、学生に対して学生支援に関するアンケート調査を実施した。 ○「学長賞」をさらに充実させ、秀でた活動を行った個人およびクラブのみならず、平成25年度から学業成績優秀者について、歯学科3年次生、5年次生、6年次生、口腔保健学科3年次生、4年次生を表彰対象とした。 ○キャンパスライフ・ガイダンスを各学年において年度内に4回実施し、学生に修学指針を周知徹底するとともに、心身の健康管理に関する知識の普及を行った。 ○保護者説明会を開催するとともに、同説明会において保護者に対して大学の「学生指導」に関する聞き取り調査を実施した。 ○目標実績 ・学生支援に関するアンケート調査 : 評価3.0(満点5) ・保護者説明会に関する個別聞き取り調査 : 概ね良好	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.7「学生の満足度調査」 No.16「課外活動の状況」	13								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
									【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)							
									年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
									24							
25																

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
2	【就職支援の充実】 ①就職支援体制を整備し、入学時からキャリアデザインを支援する取り組みを行う。 ②口腔保健学科では、歯科衛生士としての位置付けにとどまらず、口腔保健活動の新たな担い手として就労できるように幅広い就職先を開拓する。 ③学生に対し、就職情報獲得のためのセミナーを開催し、就職支援を推進する。 ○達成目標 ・(歯学科)歯科医師臨床研修マッチング率:100% ・(口腔保健学科)就職率:100% ・訪問先の企業・病院・施設でのアンケート調査:良好評価60%以上	2-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○口腔保健学科において「就職支援会議」の指示のもと、個別事例に対処する「就職支援実施会議」を稼働させ、口腔保健学科第1期卒業生の就職活動をケーススタディーとして、就職支援に関する運用のシステム化を図った。 ・教職員の就職支援体制として、「キャリアカウンセラー資格」の取得支援を行った。 ・「求人者」、「求職者」情報のデータベース化に取り組み、求人情報の閲覧システム及び就職支援全般の運用システムの構築を行った。 ・口腔保健学科生を対象とした「キャリアガイダンス」を開催するとともに、就職支援面談及びセミナーを実施した。 ○就職支援会議主導で、新たな就職先開拓のため企業訪問等を実施した。 ○目標実績 ・歯科医師臨床研修マッチング率 : 100% ・(口腔保健学科)就職率:100%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.18「就職状況」	14								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)【意見・コメント等】					
									【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)							
									年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
									24							
25																
3	【経済的支援の充実】 ①図書館やTA等により、学内で学生・大学院生を臨時的に雇用するなど、経済的支援を充実させる。 ②授業料の減免・分納制度や奨学金情報の周知徹底を図る。 ○達成目標 ・TA制度の認知度:100% ・学生支援機構以外の奨学金の認知度:100%	3-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○経済支援の機会を提供した。 ・図書館業務、学内行事等において学生・大学院生を臨時的に雇用した。 ○学生への経済支援に係る情報の収集・提供を行った。 ・県内外の自治体及び民間団体の奨学金制度情報の把握に努めるとともに、学部学生及び大学院生に対してキャンパスライフガイダンスを利用して、適宜の情報提供を実施した。 ○目標実績 ・TA制度の認知度:100%(学生全員参加のキャンパスライフガイダンスによる周知) ・学生支援機構以外の奨学金の認知度:100%(キャンパスライフガイダンスによる周知)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		15								

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+) ・ A ・ B ・ C ・ D)	(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)						
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容	
		24						
		25						
		ウエイト総計		25年度 17			項目数計	25年度 15
【ウエイト付けの理由】(年度計画)								
「1-1-2-1」平成23年3月31日に文部科学省が発表した医療系モデル・コア・カリキュラムの改訂に対応し、臨床力を高める教育の充実に重点的に取り組む。 「1-2-3-1」単科大学における歯学と工学の大学院連携は日本で初めての試みであり、この取組を推進することにより、本学のPRや質の高い研究者の育成、ひいてはブランドイメージの向上につなげていく。								
教育に関する特記事項(平成25年度)								
平成25年度の歯科医師国家試験結果を真摯に受けとめ、歯学部長に改善案の提示を求め、次回の成績向上にむけて全学体制で臨むこととした。								
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			【意見・コメント等】			

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項				評価	理由					
2	【研究の事後評価システムの充実】 ①研究活動の事後評価システムを適正化し、各研究者の研究活動を公表する。 ②研究開発成果などの知的財産を総合的かつ戦略的に管理・活用する知的財産部門を設置する。 ○達成目標 ・論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの) : 英文誌70件(年間) ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る) : 25件(年間) ・特許保有件数 : 3件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数)	2-1	【平成25年度計画】 ○研究活動の評価・検証システムを運用し、研究費配分の適正度をチェックする。 ○各教員の研究活動の中で客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究の成果をホームページ上で公表する。 ○本学の研究成果を知的財産の観点から検証する組織の必要性について検討する。 ○達成目標 ・論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの) : 英文誌70件 ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る) : 25件 ・特許保有件数 : 1件	1	【平成25年度の実施状況】 ○研究計画の申請を評価する際に、これまでの研究業績を評価し、研究計画と研究実施能力に基づいて研究費を配分した。 ○各教員の研究活動の中で客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究の成果をホームページ上で公表した。学生:1件、大学院生:3件、教員:2件 ○本学の研究成果を知的財産の観点から検証する組織として発明委員会を開催した。 ○知的財産の管理・運用に係る情報収集のため、広域大学知的財産アドバイザー派遣事業に北九州地区の他大学等とともに共同申請し、採択を受けた。 ○達成目標 ・論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの) : 英文誌73件 ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る) : 27件 ・特許保有件数 : 3件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.20「論文等の実績」	17		
										(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	
										【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)	(決定)【意見・コメント等】
										【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)	
										年度評価	自己評価 評価 ウエイト
24											
25											
3	【外部大型研究資金の獲得】 ①大学として、大型外部資金獲得のために積極的な活動を行う。 ○達成目標 ・科学研究費 : 60件(年間) ・委託研究費・共同研究費 : 60件(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金 : 60件(第2期中期計画期間中) ・文部科学省等が設定する大型プロジェクトの獲得 : 1件(第2期中期計画期間中)	3-1	【平成25年度計画】 ○教員個人の外部研究資金の増加を目指すとともに、大学として歯工学連携などを通じ組織的に研究資金獲得を推進する。 ○大学組織としての外部大型資金の獲得に向け、引き続き検討する。 ○達成目標 ・科学研究費 : 60件 ・委託研究費・共同研究費 : 10件 ・奨学寄付金 : 10件	2	【平成25年度の実施状況】 ○教員個人の外部研究資金の増加を目指すとともに、大学として歯工学連携などを通じ組織的に研究資金を獲得した。 ○大学組織としての外部大型資金を獲得した(文部科学省大学連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト継続)。 ○次年度、新たな外部大型資金の獲得のため、学長主導のチームプロジェクトを始動させた。 ○達成目標 ・科学研究費 : 91件 ・委託研究費・共同研究費 : 10件 ・奨学寄付金 : 12件	A	【高く評価する点】 平成25年度の科学研究費の採択率が全国3位(採択率:47%)となった。 【実施(達成)できなかった点】	No.19「研究」	18		
										(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	
										【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)	(決定)【意見・コメント等】
										【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)	
										年度評価	自己評価 評価 ウエイト
24											
25											

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号						
項目	実施事項				評価	理由								
4	【産学官連携の推進】 ①一般企業ならびに学外諸機関との交流を深め、歯学部得意分野を活かした連携を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携件数：40件(第2期中期計画期間中) ・特許出願件数：10件(第2期中期計画期間中)	4-1 【平成25年度計画】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進する。 ○歯工学連携をさらに医歯工学連携に発展させ、県民の健康・福祉の向上に向けた研究を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携数：5件 ・特許出願件数：2件	1	【平成25年度の実施状況】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進した(文部科学省大学連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト継続)。特別講演:10件 ○歯工学連携をさらに医歯工学連携に発展させ、県民の健康・福祉の向上に向けた研究を推進した(歯工学連携国際シンポジウム:2件、特別講演7件)。 ○九州ヘルスケア産業推進協議会や九工大、産医大等と共催して、医歯工学連携マッチングセミナーを開催した。 ○経済産業省「平成25年度課題解決型医療機器等開発事業」の最終年度報告を行い高い評価を得た。 ○達成目標 ・産学官連携数：10件 ・特許出願件数：0件	A	【高く評価する点】 文部科学省大学連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクトに基づき、産業医科大学、九州工業大学、北九州市立大学とともに医歯工学連携を推進し、大学院教育において4大学間で単位互換協定を締結した。 【実施(達成)できなかった点】	No.21「産学官連携」	19						
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)					
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】		
									【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)					
									年度評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	業務実績評価書の記載内容		
									24					
25														
		ウェイト総計	25年度 5	項目数計			25年度 4							

【ウェイト付けの理由】(年度計画)
「2-1-3-1」歯工学連携を締結して4年が経過し、新たな飛躍を目指す上で大型外部資金の獲得にも積極的に取り組む。

研究に関する特記事項(平成25年度)
個人あるいは分野単位から、大学あるいは他大学連携という形で研究を展開しようとする教員数が増えてきた。

(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	【意見・コメント等】		
--------------------------------------	------------	--	--

年度計画項目別評価

中期目標 3. 社会貢献	「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、歯科医師や歯科衛生士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域の歯科保健医療の発展に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。
-----------------	---

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号	
項目	実施事項				評価	理由			
1. 地域社会 への貢献及 び国際交流 に関する体 制の構築・ 維持 1. 社会貢 献及び国際 交流の促進 2. 地域連 携及び国際 交流に係る 業務の組織 的対応	1【リカレント教育の充実】 ①地域歯科医療に携わる 歯科医療職に対して、セミ ナーの開催やe-learning 等を通したリカレント教育 を展開する。 ○達成目標 ・開催回数および受講者 数：開催回数 2回/年 受講者数 50人/回 ・アンケートによる満足度 調査：満足度4点以上 (満点5) ・e-learningの満足度調査 ：満足度4点以上(満点 5)	1-1【平成25年度計画】 ○地域歯科医療関係者に対するセミナーを 開催する。 ・歯科医師等を対象としたセミナーを開催す るとともに、受講満足度にかかるアンケート 調査を実施する。 ○e-learningの充実を図る。 ・e-learning受講者を対象とした受講満足度 にかかるアンケートを実施する。 ○達成目標 ・開催回数および受講者数：開催回数 2回/年 受講者数 50人/回 ・アンケートによる満足度調査：満足度4 点以上(満点5) ・e-learningの満足度調査:満足度4点以上 (満点5)	1	【平成25年度の実施状況】 ○地域歯科関係者に対するセミナーを開催した。 ・お口の健康セミナーを開催し、84名の医療関係者の参加があった。 ○e-learningを配信し、受講満足度の実態把握に努めた。 ・e-learning受講者を対象とした受講満足度にかかるアンケートを実施したとこ ろ、平均満足度は4.3であった。 ○目標実績 ・開催回数および受講者数：開催回数 1回/年 受講者数84人/回 ・e-learningの満足度調査:満足度4.3点(満点5)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20	
	(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
	【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】				
	【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
	年度 評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
24									
25									

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号				
項目	実施事項				評価	理由						
2	【他大学との社会貢献共同プログラムの実施及び研究成果等の地域への発信】 ①県立三大学連携による社会貢献共同プログラムを実施する。 ②市民公開講座等を通じて、地域住民に研究成果等の情報を広く発信する。 ○達成目標 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画以上 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数3回/年 受講者数50人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4以上(満点5)	2-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○三大学連携による地域貢献活動を実施した。 ・「県立三大学連携会議」により、各大学の特色を活かした地域貢献連携事業として公開講座を開催した。平成25年度は、本学主催で『食べる・噛む・生きる～食育で作る健康な心と体～』と題した講座を開催し、多くの参加者を得た。 ○公開講座等により地域住民に研究成果等を情報発信を行った。 ・本学主催で、医療従事者や一般市民等を対象とした公開講座を開催した。とくに、百周年記念事業として開催した市民公開講座『食と咀嚼～口から変わる命～』は600名近い参加者があり、地域住民から高い支持を得た。 ・北九州市の4大学(北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学、九州歯科大学)が連携し、4大学スクラム講座を実施した。 ・地元医師会や行政機関等が主催する8020運動関連イベント等への協力体制を敷いた。 ○目標実績 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数7回/年 受講者数160人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4以上(満点5)98.2%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.22「大学間連携」 No.23「公開講座」	21				
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)	(決定)【意見・コメント等】		
									【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)			
									年度評価	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容
									24			
25												
3	【アジアを軸とした海外との連携促進】 ①アジア諸国から留学生を積極的に受け入れる体制を強化する。 ②海外大学との学術交流を推進する。 ③ネパールやベトナムを中心とした歯科保健活動を推進する。 ○達成目標 ・留学生数：5人(第2期中期計画期間中) ・海外大学との学術交流件数：5件(第2期中期計画期間中)	3-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○留学生の積極的な受け入れに向けた取組みを行った ・英語教材の開発などを進め、大学院のシラバスでは、一部学科目において英語による表記を行った。 ○海外大学との学術交流を進めた。 ・現在本学に在籍する留学生や本学からの海外留学生を通して、海外大学との学術交流を推進し、香港、台湾に加え、フィンランド、カナダ、タイ、インドの大学と協定書を交わし、学術交流を開始した。(平成24・25年の2年間で7ヶ国8大学と連携) ・海外研究者との連携を図るため、本学主催で国際シンポジウム(ASIA-PACIFIC CONFERENCE)を昨年度に続いて開催し300名以上の参加があった。 ・セルビアから2名の研究者を受け入れ、6ヶ月間Visiting Professor(客員教授)及びVisiting Associate Professor(客員准教授)として、教育研究に従事した。 ○海外での歯科保健活動を推進した。 ・ミャンマーにおける歯科保健活動について、現地で打ち合わせ等を実施し、保健省との連携書作成の骨格が出来上がった。 ・前年度に引き続き、ベトナムでの歯科保健活動にチームを組んで派遣を行った。 ○目標実績 ・留学生数：1人 ・海外大学との学術交流件数：6件	A+	【高く評価する点】 海外大学との学術交流を推進し、海外6大学と協定書を交わし、学術交流を開始した(現在合計10大学)。海外研究者との連携を図るため、本学主催で歯学教育における国際シンポジウム(ASIA PACIFIC CONFERENCE)を昨年度に引き続き開催し、300余名の参加者が得られた。 【実施(達成)できなかった点】	No.24「国際交流協定」 No.25「学生、教員の国際交流」	22				

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】			
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)						
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容	
		24						
		25						
4	【地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動の実施】 ①保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ②公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ③福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要なデータを提供する。 (福岡県民への歯科保健医療施策に対する後方支援活動) ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5)	4-1	【平成25年度計画】 ○保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ○公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ○福岡県からの求めに応じて福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要なデータを提供する。 ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5)	1	【平成25年度の実施状況】 ○大学近隣の保育園、幼稚園に訪問して口腔保健にかかる講演と相談を実施した。 ・到津保育園、天心幼稚園、八幡カトリック幼稚園、篠崎保育園、聖ヶ丘幼稚園の5施設で実施した(保護者155名、園児162名)。 ・乳幼児の歯科保健に関するパンフレットを作成して、参加者に配布した。 ○小倉北区老人クラブ連合会と連携して、高齢者に対する口腔保健にかかる講演と相談を実施した。 ・南小倉校区老人クラブ、清水校区老人クラブ連合会、南丘校区老人連合会、小倉中央校区老人連合会、堺町・米町・天神島老人会(参加者数:173名) ・苅田町の「すてきにマンデーサロン」(苅田町中央公民館)で口腔保健にかかる講話を行った。(5回) ・地域団体からの要請に対して、講師派遣を行った。 ○福岡県歯科口腔保健推進計画の策定に際して、歯科口腔保健推進計画策定作業部会に参画し、データの提供や計画の執筆を行った。 ○目標実績 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査:5回、満足度4.6 ・公民館、老人クラブへの訪問回数及びアンケート調査:9回、満足度4.8	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	23
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】			
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)						
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容	
		24						
		25						

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
5	【地域における在宅療養高齢者に対する歯科保健医療サービスの提供】 ①地域で在宅療養を行っている高齢者の口腔機能に着目して、摂食嚥下リハビリテーションなどの歯科保健医療サービスを提供する。	5-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○地域の歯科医師会と連携して在宅の対応困難な高齢者について紹介を受けるシステムを構築した。(平成25年度の紹介実績はなかった) ○在宅高齢者が一時的に病院に入院した期間については、訪問診療と同時に摂食嚥下リハビリテーションを実施した。(2件)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
		年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
24										
25										
		ウェイト総計	25年度 5			項目数計	25年度 5			

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

--

社会貢献に関する特記事項(平成25年度) 今後も、附属病院を通じた社会貢献の充実を図っていく。
--

(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	【意見・コメント等】		
--------------------------------------	------------	--	--

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
2	【プロパー職員の採用と専門性を持った大学職員の育成】 ①事務職や看護職等のプロパー職員を採用し、将来の大学運営を担う専門性を持った職員を育てる。 ②プロパー事務職員の人事評価制度を導入し、必要に応じて見直す。 ③人事評価に基づき採用計画の検証・見直しを行い、第3期中期計画期間に向けた事務局体制を検討する。	2-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○専門性を有する職員を育成するため、三大学の共同採用試験を実施し、プロパー事務職員3名を採用した。 ・プロパー事務職員の採用者 3名 ・人事評価制度の導入については、引き続き三大学で検討することとした。 ○附属病院の歯科衛生士についても、平成25年度から競争試験を実施し、プロパー職員3名を採用した。 ・プロパー歯科衛生士の採用者 3名 ○これまでに採用したプロパー職員は事務処理能力等高い。そのため、平成26年度も計画どおりプロパー職員の採用を予定している。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		26		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
		年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
		24								
25										
3	【SDの実施や専門研修等への派遣、キャリア開発支援等を軸とした事務局職員の資質・能力の向上】 ①福岡県の公立大学の職員としてふさわしい知識や資質を身に付けさせるため、事務職員を対象としたSDを検討し実施する。 ②大学運営のスペシャリストとして育成するため、プロパー職員を公立大学協会等が主催する外部セミナーや専門研修へ派遣する。 ③事務職員の自律的なキャリア開発支援として、自己啓発や通信教育などに対する支援を検討し実施する。 ④より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討し実施する。	3-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○事務職員の資質・能力の向上、人材育成を図るため、SDの実施や研修機会の確保・提供等に努めた。 ・事務局職員のSDとして、大学法人化の経緯や第2期中期計画における実施状況等についてオリエンテーションを実施した。加えて、理事長及び副理事長によるマネジメントにかかる研修もSDとして実施した。 ・プロパー職員の研修として、公立大学協会主催のセミナーや県職員研修所の新採職員研修、専門研修等に積極的に参加させた。 ・自己啓発意識の高揚及び資質向上のため、通信研修を受講する場合、受講料の一部を助成する制度を創設した。 ・県立三大学庶務事務システム共同導入ワーキンググループを開催し、県立三大学における庶務事務等システムの共同導入等について協議した。 ・法人職員採用試験を三大学合同で取り組むことによって、効率的・効果的な事務処理を図ることができた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		27		

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)						
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容	
		24						
		25						
2. 安全管理体制の整備・充実	1 【情報ネットワークや情報セキュリティの強化による情報マネジメントシステムの拡充】 ①情報セキュリティポリシーを策定する。 ②情報セキュリティの検証、教職員に対する広報・研修を行い、情報マネジメントの運用体制の充実を図る。	1-1 【平成25年度計画】 ○情報マネジメントの根幹となる情報セキュリティポリシーを策定する。 ○情報マネジメントの運用体制について、体系的に整備を進める。	1	【平成25年度の実施状況】 ○情報マネジメントの根幹となる情報セキュリティポリシーを策定した。 ・情報セキュリティポリシーとして、「公立大学法人九州歯科大学情報セキュリティ基本方針」と「公立大学法人九州歯科大学情報セキュリティ対策基準」を制定した。 ○副理事長をCIOとし、情報マネジメントの運用体制を確立した。 ・情報セキュリティポリシーにおいて、運用体制を規定し、責任の所在の明確化を行った。 ・情報処理専門職員の資質向上のため、関連団体や民間が主催するセミナーに積極的に参加させた。 ・事務局における情報の円滑な管理・運用のため、情報適正管理委員会を組織した。	A	【高く評価する点】 これまで、部局間を連携する組織作りに苦慮してきたが、平成25年度、理事長・副理事長が一体となって体制作りを行い、副理事長をCIOとしての活動が開始した。その結果、附属病院の情報管理も円滑に行える体制が整った。 【実施(達成)できなかった点】		28
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)						
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容	
		24						
		25						

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号					
項目	実施事項				評価	理由							
	2【安心・安全の医療を提供するための体制の整備】 ①附属病院診療機器更新の整備計画を策定する。 ②診療情報管理体制を充実する。 ③医療情報システムを充実する。 ④医療安全に関する検証・対策を強化する。 ⑤医療従事者の技術向上等に向けた研修体制を拡充する。 ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回	2-1【平成25年度計画】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進する。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画を策定し、実施する。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた作業を開始する。 ・病院会議において、リスクマネジメント活動の強化に向け、講習会を企画する。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施し、検証する。 ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回	1	【平成25年度の実施状況】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進した。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画を策定し、実施した。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた作業を開始した。 ・病院会議において、リスクマネジメント活動の強化に向け講習会を企画し、26年度に実施予定。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施し、職員参加状況を検証した。2回の講習の出席率は84.3%、83.1%であった。未受講者に対して補講を行う等の工夫を行った結果である。 ○目標実績 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回実施	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		29					
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)				
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)		(決定)	【意見・コメント等】	
									【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)				
									年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト
24													
25													
3. 教員個人業績評価の充実 1. 個人業績評価制度の適切な運用	1【個人業績評価制度の検証と適切な運用】 ①口腔保健学科教員に対応する個人業績評価制度を検討し、1学部2学科体制に適した運用方法を構築する。 ②個人業績評価に係る教員処遇方法を検証し、必要に応じて改善する。	1-1【平成25年度計画】 ○平成24年度に設定した「個人業績評価に関する実施基準」による評価を実施する。 ・新たな評価システムによる評価実施内容の検証を行う。 ・自己評価実績報告書の付属書の内容の検討を行う。	1	【平成25年度の実施状況】 ○評価システムのブラッシュアップを行った ・平成24年度の自己評価実績報告書を踏まえ、評価方法を見直し、評価の低い教員に対しては、学部長面談を実施した。 ・評価対象項目の見直しについては、前記の学部長面談も踏まえ、評価検討部会において「自己評価実績報告書の付属書」の内容検討を行い、評価に適した内容変更を行った。 ・個人業績評価の教員への処遇方法の見直しについて検討を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		30					
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)				
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)		(決定)	【意見・コメント等】	
									【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)				
									年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト
24													
25													

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項				評価	理由					
4. 附属病院の業務改善 1. 新たな診療体制の確立 2. 地域歯科医療連携体制の整備 3. 療養担当規則の徹底等、より適切な保険診療の推進	1【診療科再編による診療体制の充実】 ①診療科再編の効果を検証し、先進医療の円滑な実施に資する診療体制を確保する。	1-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○口腔内科の診療体制の確立 ・口腔内科と口腔外科の診療における棲み分けを確立し、スタッフのローテーション体制を整備した。 ・口腔内科が診断科にも対応できるようにした。 ○平成24年度の実態調査を踏まえた改善 ・診断科の業務改善のため、主たる対応を口腔内科に一本化し、患者の待ち時間を短縮した。 ・新しい医事システムに画像を各診療科で直ちに観ることができるシステムを導入し、放射線科の業務改善を行った。 ・口腔外科の受付を充実させ、待ち時間の短縮を図った。 ・総合診療科のスタッフを充実させ、治療の流れをスムーズにすることで患者の満足度と待ち時間の短縮を図った。 ○待ち時間と満足度の再調査を行い、改善の評価を行った。 ・診断科、放射線科の業務改善により15分以内に対応できた新患者が診断科では73%(昨年:62%)が、放射線科では83%(昨年:62%)と向上した。 ・総合診療科の充実等により再来患者の待ち時間の短縮がなされており、5分以内に診療にかかれた患者が48%(昨年:42%)と改善した。 ・待ち時間に関する満足度調査では再来患者の71%が「満足」もしくは「やや満足」と答えていた(昨年:58%)。 ・診療内容に関する満足度では80%の再来患者が「満足」もしくは「やや満足」と答えていた(昨年:69%)。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		31			
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
		24									
		25									
		2【地域包括型歯科医療連携の機能の整備】 ①病診連携室の業務を拡充し、地域包括型歯科医療連携体制を整備する。	2-1	2-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○地域包括型歯科医療連携体制の構築のため、各種セミナー、研修会、意見交換会を行った。 ・市民公開講座「お口の健康セミナー」(高齢者の生活を支援する新しい多職種連携)を開催した。(参加者84名) ・八幡歯科医師会と八幡地区における歯科医療連携の構築について意見交換を行った。(参加者13名) ・福岡県歯科医師会臨床研修セミナーにおいて、歯科医院での緊急搬送時までにいくべき対応について講演した。(参加者86名) ・勤務医会会議(北九州地区病院歯科連絡研修会)を実施した。(4回:参加者数61名) ○目標実績 ・北九州市および近隣の歯科医師会との意見交換会の実施 1回 ・開業医・病院歯科勤務医を対象とした医療連携研修会の開催 4回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		32	
				(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
				【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】			
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
年度評価	自己評価 評価			ウェイト	評価 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
24											
25											

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
	3【療養担当規則をベースとした保険診療の推進】 ①電子カルテシステムの検討状況を踏まえ、診療記録の記載を充実する。 ②保険診療の理解を深化させるための研修を実施する。 ③診療報酬請求業務を充実させる。 ○達成目標 ・保険診療業務に関する研修：年12回	3-1【平成25年度計画】 ○療養担当規則をベースとした保険診療の推進を継続する。 ・医療部会において、診療記録の記載の充実に向けた指導を行う。 ・医療部会において、診療報酬請求状況の精査を行い、的確な請求を行うため、診療担当医への個別指導等の研修を実施する。 ・医療部会からの診療担当医への個別指導等の内容を、診療担当医から各診療科の歯科医師へ伝達研修として実施する。 ○達成目標 保険診療業務に関する研修：年12回 (上記の伝達研修を含めて実施する)	1	【平成25年度の実施状況】 ○療養担当規則をベースとした保険診療の推進に努めた。 ・診療録の記載内容を適正とする取り組みとして、医療部会において診療録と診療報酬請求書について精査を行った。具体的には、診療録の記載内容と診療報酬明細書の突合を診療科別に毎月、実施した。その結果に基づき、診療担当医に対して個別指導を行い、診療録記載に関する研修を毎月、年12回実施した。 ・医療部会から診療担当医への個別指導等の内容は、診療担当医の所属する診療科の歯科医師全員へ伝達研修を行いその報告書を提出させた。 ・誤りの多い記載内容を明確にするため、返戻あるいは査定された診療報酬請求書内容をデータベース化する作業を開始した。 ○目標実績 ・保険診療業務に関する研修：年12回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		33	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)							
		年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容				
		評価	ウェイト	評価					ウェイト
		24							
		25							
		ウェイト総計		25年度 9	項目数計		25年度 9		

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

業務運営に関する特記事項(平成25年度)

① …

(評価委員会)
【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

【意見・コメント等】

年度計画項目別評価

<p>中期目標 5. 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。 附属病院については、教育研究機能の充実と医療サービスの向上に努めるとともに、経営の効率化を推進する。</p>
-----------------------	--

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
1. 法人収入の確保 1. 外部資金の獲得	1 【外部研究資金等の獲得】 ① 科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金等の個人研究費に加え、大学として外部大型資金の確保を図る。 ○達成目標 科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金の獲得件数及び金額 ・科学研究費 60件 100,000千円(年間) ・受託・共同研究費 60件 100,000千円(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金 60件 50,000千円(第2期中期計画期間中)	1-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○外部資金獲得に積極的に取り組んだ結果、個人研究費については、高水準を維持することができた。 ○目標実績 ・科学研究費 件数 91件 金額 156,555千円 ・受託・共同研究費 件数 10件 金額 11,173千円 ・奨学寄付金 件数 10件 金額 7,582千円	A	【高く評価する点】 ・平成25年度の科学研究費の採択率が全国3位(採択率:47%)となった。 【実施(達成)できなかった点】	No.19「研究」	34		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)					【意見・コメント等】	
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
		年度評価		自己評価 評価 ウェイト					評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容
24										
25										

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
2. 運営経費の抑制 1. 業務の電子化・システム化による事務の省力化、人件費の抑制 2. 事務局業務の外部委託による人件費の抑制	1【事務局業務の外部委託、電子決裁システム導入や業務のシステム化による事務の省力化・人件費の抑制】 ①事務局の定型的な業務である給与支給事務を外部委託し、職員の削減と人件費の抑制を図る。 ②電子決裁システムを導入し、事務の省力化・ペーパーレス化を進める。 ③大学全体のIT化の一環として可能な業務をシステム化し、事務の省力化と従事人員の削減を図る。	1-1【平成25年度計画】 ○外部委託業者と給与担当者とが定期的(4か月毎)に給与支給処理業務の勉強会を実施し、正確な給与支給と処理業務の効率化を行う。 ○電子決裁システムについて、県立三大学の事務の共通化の議論を踏まえて検討する。 ○業務の省力化に向け、法人業務のシステム化の可能性について検討を行う。	1	【平成25年度の実施状況】 ○給与システム外部委託業者と給与担当者間で、給与規程等の改正に伴うシステム対応の打合せや進捗管理を定期的実施しながら、正確な給与支給と処理業務の効率化に務めた。 ○事務の省力化、業務のシステム化に向けて検討を行った。 ・電子決裁システムや、業務の省力化については、「福岡県立三大学庶務事務共同導入ワーキンググループ」において協議を行った。 ○公開情報である本学の研究者総覧についてシステムの導入を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		35		
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)	(決定)【意見・コメント等】
									【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)	
									年度評価	自己評価 評価 ウエイト
24										
25										
3. 附属病院の収入の向上 1. 高次医療の提供 2. 先進医療及び自費診療の推進 3. 訪問歯科診療の推進	1【地域包括型歯科診療連携体制に基づいた高次医療の提供による収入増】 ①地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ○達成目標 ・かかりつけ歯科医等との地域連携パスの策定	1-1【平成25年度計画】 ○地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ・近隣医科病院の退院時カンファレンスに参加し、在宅に戻っても切れ目のない口腔管理体制を整える。今年度は市内の1病院を目指す。 ・歯科医師会との迅速かつ緊密な関係を構築し、在宅ケアにおけるかかりつけ歯科医との病診連携を推進する。 ・がん拠点病院等の医科病院との連携・登録化を推進し病病連携を推進する。 ・地域連携パスの策定に向け、地域医療機関との協議を開始する。	1	【平成25年度の実施状況】 ○地域の歯科医療機関との連携をさらに進めるための諸取組を行った。 ・地域医療支援病院5病院(八幡記念製鉄病院、小倉医療センター、九州厚生年金病院、戸畑協立病院)との開放型病床利用登録契約を進めた。 ・がん診療連携拠点病院(九州厚生年金病院)に登録契約を申請した。 ・戸畑協立病院の術前カンファレンス、カンサーボード会議に参加した。 ・八幡歯科医師会学術講演会(静脈路確保と緊急時対応、参加者数69名)に参加するとともに、歯科医師会役員と地域における在宅医療における緊急時対応策について協議を行った。 ・福岡県歯科医師会臨床研修セミナーで(歯科医院で緊急搬送時までに行うべき対応について)講演するとともに、県歯科医師会役員と地域歯科医療連携の強化について協議を行った。 ・地域医療連携室の情報管理収集業務と報告業務を強化した。その結果、地域における紹介患者数の分布図が作成できた。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		36		
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)	(決定)【意見・コメント等】
									【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)	
									年度評価	自己評価 評価 ウエイト
24										
25										

中期計画		平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号				
項目	実施事項				評価	理由						
2	【先進医療及び自費診療の積極的推進による収入増】 ①先進医療の届出を積極的に進め、診療報酬等の収入増を図る。 ②地域住民に高度な医療を提供する自費診療を推進し、収入増を図る。 ○達成目標 ・先進医療の届出件数：第2期中期計画期間中を通じて2件(継続分1件+新規分1件)	2-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○先進医療の届出を積極的に進めた。 ・「歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法」は継続申請できた。 ・「有床義歯補綴治療における総合的・咀嚼機能検査」を先進医療として申請するための機器導入を進めた。 ・「金属代替材料としてガラスファイバーで補強された高強度のコンポジットレジンをを用いた三ユニットブリッジ治療」を先進医療として申請するための症例を重ねている。 ○高度な医療を提供する自費診療を推進した。 ・自費診療収入は昨年より700万円増加した。 ・高度な医療に関する院内研修会を実施した。 ○目標実績 ・先端医療の届出件数：1件を継続	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		37				
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】
									【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)			
									年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容
									評価	ウエイト	評価	
24												
25												
3	【訪問歯科診療の促進による収入増】 ①歯科診療所に対応が困難な患者に対し社会的要請の高まる訪問歯科診療を促進する。 ○達成目標 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数：24回/年	3-1	1	【平成25年度の実施状況】 ○介護病棟を有する病院の入院患者のうち、歯科診療所に対応が困難な患者に対して、歯科訪問診療を67回実施した。また、歯科衛生士による訪問口腔衛生指導についても、34回実施した。 ○目標実績 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数 101回/年	A	【高く評価する点】 歯科疾病の変化に対応する姿勢が数字になってあらわれ、特に、歯科衛生士による活動を強化することができた。 【実施(達成)できなかった点】		38				

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+) ・ A ・ B ・ C ・ D)		(決定)	【意見・コメント等】			
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)						
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容	
		24						
		25						
		ウェイト総計		25年度 5	項目数計			25年度 5
【ウェイト付けの理由】(年度計画)								
財務に関する特記事項(平成25年度)								
① …								
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)				【意見・コメント等】				

年度計画項目別評価

中期目標 6. 評価及び 情報公開	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」 (1)評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2)情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。
-------------------------	---

項目	中期計画 実施事項	平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号					
					評価	理由							
1. 外部評価 の大学運営 への反映 1. 外部機 関の評価結 果の大学運 営への反映 2. 次期外 部評価に向 けた適切な 対応	1. 【適切な自己評価の実施 及び外部評価の大学運営 への反映】 ①県評価委員会の評価結 果を教職員に周知し、法 人運営の現状と課題に対 する意識付けを行うとと もに、評価の低い事項につ いて改善に向けた取組を 行う。 ②次期認証評価に向けた 自己評価部会を立ち上 げ、新たな評価基準に 沿った自己評価を行うと もに、教職員や学生、卒 業生に対するアンケートを 継続的に実施する。 ③認証評価機関の評価を 検証し、大学運営の改善 すべき事項に対して速や かに対応する。	1-1 【平成25年度計画】 ○次期認証評価に向け、引き続き自己評価 を行うとともに、業務評価の結果を適切に フィードバックする。 ・自己評価部会が実施した、教職員、学生 及び卒業生に対するアンケート調査結果を 検証するとともに、継続してアンケート調査 を実施する。 ・県評価委員会の評価を全学説明会で教職 員に周知する。 ・評価の低い事項については改善策を検討 し、速やかに大学運営に反映する。	1	【平成25年度の実施状況】 ○次期認証評価に向け、引き続き自己評価を行うとともに、業務評価の結果を 適切にフィードバックした。 ・平成24年度に立ち上げた第2次自己評価部会は継続的に部会を開催し、認 証評価に対する初稿を書き上げ、問題点を抽出した。 ・自己評価部会が実施した、教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査 結果をもとに、改善すべき点を改善した(自習室の拡大と開放時間の延長、学 生を対象とした防災訓練の次年度からの実施など)。 ・平成24年度の県評価委員会の評価結果については、全学説明会において、 全教員に説明するとともに周知した。また、評価の低かった項目(財務:評価3) に関しては、附属病院の収入減が原因であったことから、附属病院長以下教員 が一丸となって附属病院の改善に取り組み、昨年度より上昇傾向に向かっている。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		39					
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)				
									【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+) ・A ・B ・C ・D)		(決定)	【意見・コメント等】	
									【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・1→2)				
									年度 評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト
24													
25													

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2. 全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージの確立 1. 教育研究活動等の積極的な情報発信 2. 高校生向けの広報誌の発行及びITを活用した授業配信の実施 3. 百周年記念事業の活用	1【教育・研究活動情報及び研究実績の学外への積極的な発信】 ①大学の教育方針(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)を広く学外に発信する。 ②本学の特色ある教育内容をホームページやQ-shidaiゼミで公開し、外に開かれた大学イメージを醸成する。 ③大学の成果をまとめた広報冊子を作り公開するほか、大学案内を刷新する。 ④教育研究活動情報公開制度に対応してホームページを充実する。	1-1	1	【平成25年度の実施状況】 ・歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科、および大学院歯学研究科各々のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを、ホームページで公開するとともに、大学案内/パンフレットや入学募集要項等に掲載し、学内はもとより、広く学外へ発信した。 ・本学の特色ある教育内容をホームページやQ-shidaiゼミで公開するとともに、オープンキャンパスや大学案内等でも公表した。 ・広く国内外の高校生に本学をPRするDVDを作成した。 ・大学案内を刷新した。 ・教育研究活動情報公開制度に対応してホームページを修正するとともに新着情報を随時紹介しながら更新した。また、ホームページの全面改正が完成し、公開を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		40	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+）・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)							
		年度評価		自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容			
	評価	ウェイト	評価	ウェイト					
	24								
	25								
	2【百周年記念事業を活用した大学情報の発信】 ①広報誌、大学案内及びホームページ等すべての広報媒体を活用し、創立百周年を情報発信する。 ②大学の主要事業について、可能なものは「百周年記念事業」を前面に出して実施する。 ③百周年記念の一環として行う各種事業や新たに作成する記念誌等において大学情報を広く発信する。	2-1	2	【平成25年度の実施状況】 ・平成26年5月10日に開催する記念式典・祝賀会の成功に向けて、毎日新聞、読売新聞、日経新聞、西日本新聞等の全国版や九州版に百周年事業を広報した。 ・創立記念日(5月11日)に、九州歯科大学学長賞表彰式および九州歯科大学創立百周年記念フォーラムを開催し、学生並びに教員に対し、大学の活性化への貢献および創立百周年記念事業の積極的参加を呼びかけた。 ・創立百周年事業専用のホームページを立ち上げ、本学や同窓会のホームページとリンクするようにした。ロゴマークは、大学所定の封筒、教職員の名刺、入学募集要項、学生手帳等の他、学内各分野が主催する学会や講演会のポスターに掲載し、全国的にもアピールした。 ・博多駅、小倉駅に看板広告を設置し、百周年をPRした。 ・九州歯科大学創立百周年記念市民公開講座を開催し、多くの地域住民参加の下で、本学百年の歴史をアピールした。 ・4大学スクラム講座において百周年をアピールした。 ・九州歯科大学創立百周年記念事業の一環として「九州歯科大学史料展」を開催し、百年の歴史資料を一般公開した。 ・タイSrinakharinwirot大学、フィンランドHelsinki 大学、台湾高雄医科大学、カナダBritish Columbia大学、香港大学、インドSri Ramachandra大学と大学間学術交流協定を締結するとともに、アジア太平洋国際カンファレンスを開催し、Helsinki大学およびSrinakharinwirot大学より講師を招聘した。	A+	【高く評価する点】 平成26年度に創立百周年を迎えることを最大限に活用し、新聞等のメディア、HPの刷新、海外・大学との連携などを広報活動の中で広く発信した。 【実施(達成)できなかった点】		41	

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価	データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)						
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+) [*] ・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】			
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)						
		年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容			
		評価	ウェイト	評価				ウェイト
		24						
		25						
		ウェイト総計		25年度	項目数計		25年度	
				4			3	
【ウェイト付けの理由】(年度計画)								
【ウェイト付けの理由】 「6-2-2-1」本学が創立百周年を迎える平成26年の前後の期間は、百周年と併せて全国唯一の公立歯科大学としての実績や教育研究活動の業績等を外部に発信する絶好の機会であり、特に百周年を翌年に控えた平成25年度の取組如何がその成否を左右すると考えている。								
評価及び情報公開に関する特記事項(平成25年度)								
平成26年度の創立百周年事業の成功に向けて、教職員が一丸となって活動する組織体制を構築することができた。あわせて、同窓会と連携して、卒業生が大学活動を知るなど、母校を振り返る体制を強化した。								
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)				【意見・コメント等】				

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画				自己評価
		計画		実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
		費用の部	3,443	3,484	41	
		経常費用	3,443	3,483	39	
		業務費	3,160	3,180	20	
		教育研究経費	398	414	16	
		診療経費	715	712	△ 2	
		受託研究費等	4	6	1	
		人件費	2,041	2,046	4	
		一般管理費	283	300	17	
		(減価償却費 再掲)	(201)	(190)	(△10)	
		財務費用	0	1	1	
		雑損	—	0	0	
		臨時損失	—	1	1	
		収益の部	3,302	3,348	46	
		経常収益	3,302	3,348	45	
		運営費交付金収益	1,495	1,509	13	
		授業料収益	401	398	△ 3	
		入学金収益	62	59	△ 3	
		検定料収益	10	10	△ 0	
		附属病院収益	1,026	1,049	23	
		受託研究等収益	4	7	2	
		補助金等収益	109	92	△ 17	
		寄附金収益	12	46	33	
		その他の業務収益	1	—	△ 1	
		資産見返運営費交付金等戻	10	10	△ 0	
		資産見返補助金等戻入	89	83	△ 5	
		資産見返寄附金戻入	9	10	0	
		資産見返物品受贈額戻入	12	12	△ 0	
		財務収益	0	0	0	
		雑益	53	57	3	
		臨時利益	—	0	0	
		当期純損失	140	135	△ 4	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	140	140	△ 0	
		当期総利益	0	4	4	

中期計画	年度計画			自己評価
	計画	実績		
2. 資金計画予算	(百万円)			
	区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
	資金支出	3,241	3,299	58
	業務活動による支出	3,216	3,269	52
	投資活動による支出	19	12	△ 6
	財務活動による支出	5	17	11
	資金収入	3,192	3,247	55
	業務活動による収入	3,192	3,247	55
	運営費交付金収入	1,509	1,509	-
	授業料収入	401	392	△ 9
	入学金収入	62	59	△ 3
	検定料収入	10	10	△ 0
	附属病院収入	1,026	1,047	21
	受託研究等収入	4	9	4
	補助金等収入	109	93	△ 16
寄附金収入	12	67	54	
その他の収入	53	58	4	
投資活動による収入	0	0	0	
財務活動による収入	-	-	-	
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れすること。	該当なし		-
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし	該当なし		-
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。	目的積立金140,225,295円を取り崩し、以下のとおり教育及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 活用内容 ・附属病院における診療機器等の修繕 ・施設改修 ・教育研究における物品の購入等		-
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることのできる積立金の処分に関する計画なし 2 その他法人の業務に関し必要な事項	該当なし		-